

古事類苑

人部十

性情下 夢附

泣

〔新撰字鏡〕口嗽古吊反、咄也、佐介不、又奈久。

〔類聚名義抄〕二、涙力結力計二反、哭空屋反、ナク、哭古 呱音瓜、小兒啼聲、 啜音愕、 啼二古

ナ、〔同水〕泣音急、ナク、 〔同欠〕歎音虛、歎也、 歎音希、ス、シ、 歎音ムセフ、ナキ、ナリシク、

カ、ナシムテサ、泣餘聲、

〔伊呂波字類抄〕奈人事、啼亦ナク、 泣無聲也、 啜出涕也、 哭哀聲也、 呱

〔書言字考節用集〕八、言辭、哭韻會、大聲曰哭、 泣韻、 呱韻、

〔日本書紀〕十五、六年、哭女言哭女此、云離俱謎、

〔伊呂波字類抄〕天、字、涕、泣、涕、哭

〔書言字考節用集〕九、言辭、哭コク、 哭コク、 泣コク、 呱コ、 呱コ、 一、字彙、小兒啼聲、白虎通、人生所以泣何、木、涕、泣、掩、面、涕

〔倭訓栞〕前編三、いさつる、日本紀に泣字をよめり、古事記に、いさちるとも見えたり、いさは去來

の義にや、小兒哭泣の切なるありさまを、物にあしずりをして泣などいふがごとし、

〔類聚名義抄〕水、泣シホタル、

〔書言字考節用集〕九、言辭、泣シホタル、 泣シホタル、 泣シホタル、